



江戸川は関宿城博物館のすぐ近くで利根川から分流し、千葉県と埼玉県・東京都との境を流れ、東京湾に注ぐ約 60 km の川です。かつては江戸と関東北部を結ぶ重要な交通路であり、周辺の農地を始めとするさまざまな生活用水を供給してきました。そしてその重要性は舟運が衰退した現在でも首都圏の洪水を制御し、生活用水等を安定確保するなどの点で変わっていません。

今回の展示ではそんな江戸川の川沿いの風景を船で下るように眺めていこうと思います。特に今回は利根川からの分流点から、利根運河との合流地点までを一区切りにして紹介いたします。ただ川面を眺めるだけでなく少し横道にそれて、川の周辺の景色や文物にも目を止めてみようと思います。

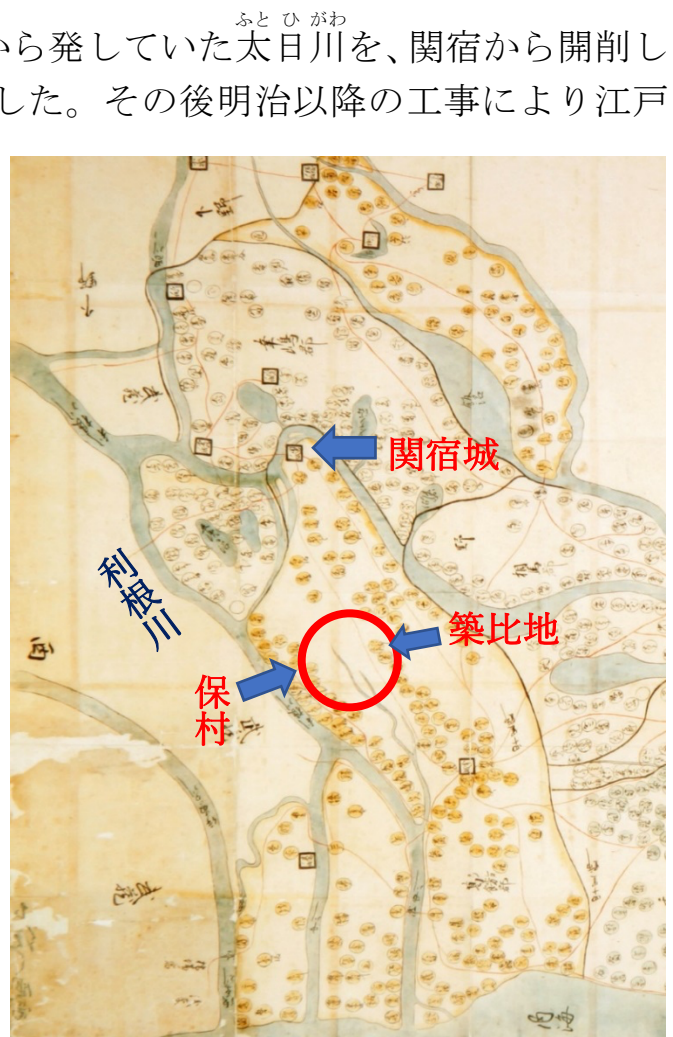
この展示をご覧いただき江戸川に興味を持たれましたら、川を訪れ川面を眺め、その瀬音に癒されていたいただければ幸いです。

(1) 江戸川の歴史

徳川幕府は江戸初期に現在の野田橋付近から発していた太日川を、関宿から開削し権現堂川と逆川と合流させ利根川と繋げました。その後明治以降の工事により江戸川は利根川から直接分流することになり、大正期の工事により江戸川放水路が開削され現在の姿となりました。

下総之国図（複製）部分 当館蔵

元和期（1615～24）に作成したとされる下総国全体を描いた絵図です。当時の利根川と江戸川が記されており、利根川は江戸湾に流れています。江戸川に名前の表記がなく、関宿とも繋がっておらず、築比地（現埼玉県松伏町）と保村（現埼玉県吉川市）の間から発していることがわかります。



関宿領地絵図（複製）部分 当館蔵

寛文11年（1671）作成された関宿藩領の絵図です。承応3年（1654）に赤堀川が開削され、関宿城付近で赤堀川と権現堂川の二流が合流し、利根川として銚子に向かって流れています。

江戸川は関宿城下の江戸町まで開削され、逆川を通して利根川につながっています。



（2）流頭部



江戸川が利根川から分流する地点です。画面右上に利根川から江戸川が左に分かれています。

画面中央には建設されたばかりの真新しい関宿城博物館が写っています。撮影時には圏央道はまだ開通していません。なお現在、流頭部付近の河川敷は工事のため立入禁止となっています。

昭和2年（1927）に建設された関宿水閘門（五霞町山王）です。水門と閘門を併設した施設で、8門のゲートをディーゼルエンジンで昇降させ下流への水量を調節します。

閘門は船舶の航行時に前後の門を開閉し、水量調節するためのものです。



(3) 関宿橋から宝珠花橋まで

関宿橋から見た江戸川

関宿橋は埼玉県幸手市と千葉県野田市関宿を結ぶ橋で、写真は橋の上から下流方向を撮影したものです。

江戸川も分流地点から3 kmではまだ川幅も細いです。



中川上流排水機場（幸手市西関宿）

江戸川に架かる関宿橋の幸手市側に中川の洪水調節を目的として造られた施設です。

江戸川と中川の間であり、洪水時には中川上流排水機場のポンプを動かすことで、中川から江戸川に排水を行っています。

正明寺（杉戸町鷺巣）

江戸川右岸の鷺巣村（現埼玉県杉戸町）にある曹洞宗の寺です。

寺伝によると、戦国期の駿河の武将関口氏広（今川家重臣）の子孫である長文が正保期（1644～48）に開いたとされます。

境内には元文6年（1741）の地藏菩薩、延享4年（1747）の観世音菩薩が祀られ、多数の宝篋印塔があります。



(4) 宝珠花橋から金野井橋まで 宝珠花橋から下流方向

宝珠花橋は野田市と春日部市を結ぶ橋です。この辺りはかつて宝珠花村と呼ばれていましたが、江戸川開削により東西に分かれました。

二つの村は渡船で結ばれ、江戸川の両岸に河岸が設けられました。



西宝珠花の家並み（春日部市西宝珠花）

宝珠花橋を春日部方面に渡った場所にある西宝珠花村の町並みです。

江戸川開削以降河岸が栄え、利根川流域の下野・常陸まで結ぶ重要な河岸でした。また江戸から関宿への陸路も通り、商業の中心地でもありました。

大風文化交流センター「ハルカイト」（春日部市西宝珠花）

春日部市西宝珠花の宝珠花小学校の旧校舎を活用した施設です。春日部市の大風文化の歴史や宝珠花村の歴史・河川交通などが展示されており、2階展示室では大風揚げの撮影コーナーもあります。

近くの宝珠花橋右岸では、広い河川敷を利用して毎年5月3日と5日に大風揚げ祭りが開催されます。



(5) 金野井橋から野田橋まで 東武線江戸川鉄橋 (野田市尾崎)

野田市と春日部市を繋ぐ東武アーバンパークラインの橋梁です。

昭和5年(1930)に架設されました。



岩名調整池公園(野田市岩名)

調整池公園は、大雨時に河川の氾濫を防ぐため、雨水を一時的に貯留する調整池の機能を備えた公園です。

岩名調整池公園では、平時も池があり、釣りをすることができる市民の憩いの場所になっています。



座生排水樋門(野田市清水)

座生川は野田市清水に端を發し江戸川に注ぐ川です。

江戸川河口から41kmの辺りに排水樋門があります。

この辺りは水はけが悪く耕作に不適でしたが、排水樋門により雨水を堤防の中を通して江戸川に流すため、平成8年度に設置されました。





岩名古墳 (野田市岩名)

座生排水樋門の近くにある古墳時代後期(6世紀末から7世紀初頭)に造られた円墳です。

横穴式石室と呼ばれる棺を納める部屋が残っています。平成7年に野田市の史跡に指定されました。

(6) 野田橋から利根運河まで 報恩寺(野田市中野台)

応永2年(1395)開創と伝えられる古刹です。もとは堤台にあり、堤台八幡神社の別当として江戸時代には末寺34カ寺を有する本寺でした。

明治3年(1870)に現在地に移転しました。境内には新四国八十八箇所霊場が奉安され、巡礼することができます。



栴田家住宅(野田市今上)

河口から37km付近の江戸川左岸近くにある栴田家は、野田下河岸(今上河岸)で江戸時代から河岸問屋を営んでいました。

煉瓦塀は江戸川増水時に屋敷地の水防の役割を担っていました。平成19年及び平成25年に国の登録有形文化財に登録されています。

利根運河（流山市深井新田）

江戸川河口より 35 k m 付近の利根運河の様子です。運河は、利根川と江戸川を結ぶため柏市船戸と流山市深井新田間約 8.5 km を開削して造られました。

オランダ人技師ムルデルの指導で明治 23 年（1890）完成しました。一時は年間 37,000 隻の船が航行しましたが、鉄道の普及や洪水の影響で航行する船が減り、昭和 10 年（1935）の洪水により運河としての機能は停止し、現在では親水公園として市民の憩いの場所となっています。



江戸川との合流地点



合流地点より利根川方面を望む